同窓会だより

世界の医療へ貢献
真和OB厚生労働省官僚

「己が業を励みて、世の文化につとめ、社会に光明を捧げむ」

国際協力機構人間開発部技術審議役
橋爪　章（八期）

高校を卒業して三〇余年を経た過日、私を乗せた国連機は、あちこちに散らばる飛行機の残骸を横目にカブール（アフガニスタン）の滑走路へ着地した。わずか一週間の滞在ではあるが、この国の劣悪な保健状況を改善するためのわが国の貢献の具体策を練るという重い使命を帯びての出張である。この国では、乳幼児の六人に一人は五歳の誕生日を迎えることができない。妊産婦の六〇人に一人は出産前後に亡くなっている。

アフガニスタンに限らず、途上国には、発展を阻害する様々な難問が待ち受けている。どれを採っても、どんな大学入試問題よりも難易度が高い問題ばかりであるが、当該国の行政官との共同作業で解答を模索してゆくのが国際協力機構（JICA）の任務である。私も、自分の知識と経験とを総動員して、これらの難問に日々アタックしているところである。これは、真和時代に漠然と思い抱いていた、将来の自分の就きたい仕事のイメージに近い。

私は厚生労働省からの派遣人事によって、このやりがいある業務にたまたま何度か従事することができているが、職場の同僚の経歴は千差万別である。どういう進路を選ぼうと、自分のやりたいことを見失いさえしなければ、きっとやりたいことができるようになるものである。ちなみに、JICA職員の採用や昇進にあたって、卒業大学のブランドはほとんど参照されていない。何を学んで、何をやってきたかがポイントである。

真和時代、自分の進路については葛藤があった。受験勉強の照準は東大合格にあったが、東大生という大勢の優等生の中に埋もれてしまうのは自分の生き方ではない、という思いも強かった。従って、東大については合格したことでひとまず目標を達成したものと割り切り、進学については自分の興味が最も引かれる学校（気象大学校）を選ぶことにした。しかしながら進学後も葛藤は続き、ここも、やがて中退することとなった。自然を相手にするより、人や社会との繋がりの中に本来の自分の居場所があることにようやく気づいたからだが、結局、医学部を経由して行政官の道を歩むこととなった。どうやら関の官僚になるのであれば東大へ素直に進学していた方が早道だったかもしれない。少し回り道をしてしまったが、気象学、医学という面白い学問に接することができたことは自分の人生を豊かにしてくれてもいる。厚生労働省では、医学を行政へ応用する仕事をたくさん手掛けさせていただいた。これまでに肝炎対策（B型肝炎の母子感染予防、献血へのC型肝炎検査の導入など）や病院機能評価などの施策形成や医薬品承認審査などの実務に携わったが、社会への貢献度が大きな仕事であればあるほどその達成感も大きい。熊本には、世界の天然痘根絶に貢献された偉大な方（国際保健医療交流センター蟻田理事長）がお住まいであるとのことで、ご縁を感じている。

医療協力の責任者として貢献することができた。ポリオ根絶は、多くの日本人が参加してアジア各国で活動を繰り広げた成果の賜物なのだが、その中でも、中国はじめ大陸の津々浦々で活躍した真和一三期の西村裕一君（故人）の貢献を忘れてはならない。西村君とは、タイの地方都市で偶然に出会い、お互いが真和の出身だとわかった時の驚きを思い出す。己が業を励んで、世の文化につとめ、社会に光明を捧げようというスピリットが真和卒業生の行動原理として活き続けていることの証左を確認しあった瞬間でもあった。真和教育に感謝。合掌。

略　歴

橋爪　章（はしづめ あきら）
Hashizume Akira

1954年11月25日　福岡県生まれ
1973年 3月　真和高校卒業
1973年 4月　東京大学理科2類合格するも辞退し、気象大学校入学。その年に中退。
1974年 4月　山口大学医学部入学
1980年 3月　山口大学医学部卒
1981年 1月　厚生省入省
1991年11月　タイ王国保健省派遣
1995年 4月
広島市出向 市衛生局長
1997年 7月　国際協力事業団出向
2002年 8月
厚生労働省医薬局血液対策課長
2004年4月
国際協力機構人間開発部技術審議役

桜の花

真和中学高等学校育友会会長　杉村　邦明

日本の春は桜であり、桜の開花とともに日本人は真の春の到来を感じ心躍らせます。野にも山にも、街路や公園あるいは庭先にも、花が咲いて「あゝ、こんなところにも桜の花があったのか」と気づくこともあります。春になると、「桜はまだ咲かないか」、「つぼみが大分膨らんだからもう咲くぞ」、「ちらほら咲き出した」と会話がはずみ、満開になる日を待ちわびます。桜の花は、清らかでとても美しいのですが、満開のときはほんの僅か一週間のことです。真和中学高校の近くにも沢山の桜があり入学式の頃に咲きます。最近暖冬のせいか、満開の時期が早まり入学式の頃には散ってしまうことがあり心を痛めています。新入生や新しい人を迎えるには満開の桜が似合っています。

さて、新入生諸君、ご入学おめでとうございます。まずは厳しい受験戦争に選抜され真和中学高等学校に合格されたことに対し、心からお祝い申し上げます。これから真和での三年間、あるいは六年間は、大学受験など将来のことも考えなければならない大切な時期であります。皆さんの将来の夢を現実のものとする為に、自ら求めて学習することが大切だと思います。人はそれぞれ個性があり、能力にも多少の差があります。自分の能力を知って、自分の学習方法を早く身につけて欲しいと思います。"能ある鷹は爪を隠す"という諺を知っていると思いますが、自分が思っているより周りにいる人たちはコツコツと目に見えないところで努力しているという訳です。

これから真和での生活を送る中で、苦楽を共にしたり、色々な悩み事を相談しあったりする良き友にも出会えることでしょう。また自分の一生を左右するほどの良き先生に出会えることと思います。いろいろな方々と交流することによって、将来大きな実を結ぶことも多いと思います。そして恵まれた環境の中で人間の心の大切さも、仏教を通じて是非学んで欲しいと思います。

最後になりますが真和中学高等学校の一人として大きな自信と誇りを持って、堂々と胸を張り、有意義に過ごす事が出来れば、将来清らかで美しい皆さんの桜の花が咲くでしょう。

真和「名門ベスト100」に
週刊朝日の広告企画
草創期中心に詳しく紹介

真和高校が「週刊朝日」平成十五年九月十九日号に「シリーズ　建学の源流を訪ねて　日本の名門高校ベスト一〇〇　私立中・高校編」に掲載された。

このシリーズは同誌のPR特集で、広告企画ではあるが、このシリーズに載ることは自体、母校が注目される存在になったことに他ならない。特集記事は六ページに渡る。

戦後の六・三・三制への反省から、中高一貫教育を目指して昭和三十五年に真和中が創設されたことや、一期生が鎮西高校の教室だった六教室を借り、仮校舎で授業を受けたこと、昭和四十一年の一期生の大学入試で、熊日新聞に「おどりでた私立三校」として商大付属、マリストとともに真和の大学合格記事が掲載され、その実績が報じられたことなど、草創期の真和を詳しく紹介している。

また「九州という地方の一高校、しかも毎年の卒業生は二〇〇名という少数にもかかわらず難関大学に多数の合格者を輩出する真和の教育を支えるもの」は中高一環の進学対策の実践、さらにそれより大きな力として「宗教教育を地盤とした全人教育の方針とその実践」だと論じている。

その中に身を置いていたものとしては「そんな大それたものじゃあ…」と気恥ずかしくなるくらいに真和を持ち上げる文章が連なっているが、草創期の先生方のご努力や同窓生の気概は、やや誇張されているものの、確かに記事にある通りだった。

同誌は、同窓会の事務局に保存してある。また各支部に連絡すれば、誰かが所有していることと思われる。ご一読願いたい。

なお、同特集は広告企画で、記事下に同窓生の広告が並んでいる。百十二枠の広告スペースに協力いただいた同窓生諸氏には、改めて心より感謝したい。

クラブ・同好会紹介

【文化部】

宗教（飛永）
文芸（衞藤）
写真（宮本）
コーラス（菩提・元田）
オーケストラ（長坂）
演劇（衞藤）
囲碁将棋同好会（高洲・國友）
生物同好会（野口）
ESS同好会（北野）
リコーダー同好会（宮本）
イラスト同好会（長尾）

オーケストラ部

演劇部

弓道部（女子）
県高校総体団体6位

テニス部
県高校総体ダブルス3位

【体育部】

軟式野球（國武・竹本）
空手（田村・中野）
剣道（松木）
サッカー（高）（藤崎・栗原・川野）
ハンド（高・中）（大村・長坂）
女子新体操（酒井）
弓道（籏方・元田）
バスケット（高）（長尾・福岡）
バスケット（中）（高洲・足立）
テニス（吉田・江島）
バドミントン（田嶋・宮崎）
陸上（松村）
卓球（中島・赤司・影山）
サイクリング同好会（田村）

ハンドボール部（女子）
県高校総体ベスト8

平成十六年度 生徒会役員名

◎生徒会長
福永絵里世（Ⅱ－2）
◎副会長
泉　美華子（Ⅱ－1）
◎代議員（5人）
林田　朋子（Ⅱ－1）
浦田　比呂（Ⅱ－1）
林　佑多（Ⅱ－4）
澤村　浩之（Ⅱ－5）
谷口雄一朗（Ⅱ－4）

卓球部（男子）
県高校総体ベスト8

空手部（男子）
県高校総体ベスト16

ホームページ

真和中学・高等学校
http://www.shinwa.ed.jp
真和同窓会（杏葉会）
http://www.shinwa-dosokai.com

同窓会お知らせ

平成16年度真和中・高等学校同窓会（杏葉会）総会・懇親会開催。

日時：平成16年6月12日（土）
18時30分～
場所：熊本ホテルキャッスルにて